

飯島ゼミの一環として、東北の被災地、岩手県陸前高田市を訪ね、仮設住宅に宿泊し、陸前高田病院の先生方からお話を伺いました。(2013年11月)



【津波から避難する際に使用された階段】

急で狭い階段だったので、大勢の人が避難するには大変だったに違いないと感じた。階段の中腹に、津波の高さを示すテープがあった。その高さにみな驚愕した。



【高台から見た陸前高田の市内の様子】

震災から2年半経った今も、さら地の状態が続いている。積土やがれき、行き交う工業用トラックが印象的だった。



【奇跡の一本松】

7万本あった松のうち、津波被害の後1本だけ残ったことから奇跡の1本松と呼ばれている。震災後人々に、勇気を与え、復興のシンボルとなっている。しかし、津波を思い出すとして取り残すことに反対する人もいたようだ。一本松の後ろには、未だ廃屋があり、取り壊されずにそこにある。



【仮設住宅内部】

震災当時とほぼ変わらない外気温の中、滞在した。住田地域は林業で有名なので、木造の仮設住宅だった。通常はプレハブの造りとなっている。寒さに加え、プライベートな空間がないので、ストレスを感じる人も多くいたのではないかと感じた。



【学生支援者からの寄せ書き】

多くは病院の実習生や医療関係者の寄せ書きであった。陸前高田の人の温かさについてや、また来たい等のメッセージが多かった。

私たちは、「継続は力なり」と書き、今後も継続的に訪れることを誓った。



【復興支援施設りくカフェの活動】

この日は、ドイツ人の折り紙講師が来ていた。女性の方が多いのが印象的で、年配の男性が少なく、こういった地域の交流の輪に入れれないのが課題とされている。私たちも、折り紙を折り、ガレキホルダーなど被災地のものを買って、運営資金に貢献できたのではないかと思う。